

## Ⅱ. 基本的取り組み方針の具体化の評価

### 1 「医療福祉の基盤の充実をめざします」

#### (1) 人材の確保と育成を図ります

##### ① 不足する人材確保と離職防止

医師、看護師等の医療従事者および介護従事者の確保対策および離職防止対策は、この圏域の重要課題として、各施設において引き続き取り組みを進めるとともに、行政として可能な支援をしていきます。

##### <実施された取り組み>

各病院、施設、事業者等が、奨学金制度、就業貸付金制度や養成研修の受入れ、研修費用の補助など様々な人材確保に向けた取り組みを行っています。

各施設等では離職防止策として、資格手当の支給やストレスチェックに実施などモチベーションアップや働きやすい職場づくりの取り組みを始めました。

湖北医師会では、将来、地域から医師希望者を増やす取り組みとして、医師体験ワークショップを、長浜市では介護職希望者を増やす取り組みとして中学校福祉出前授業を始めました。

湖北薬剤師会では、将来地域から薬剤師希望者を増やす取り組みとして、お子様調剤体験を行いました。

##### <今後めざすところ>

様々な取り組みはされていますが、依然人材不足が深刻なため、ひきつづき人材確保の取り組みを進めるとともに、こどもや若い世代に医療・介護の仕事の魅力を伝える機会を増やす取り組みを進めます。

##### ② 医療福祉サービスの充実のための人材の育成

医療福祉に携わる従事者に最新の知識技術の情報を得る機会が増えるよう、各機関、各事業所等が務めるとともに、研修情報の共有化を図ります。

##### <実施された取り組み>

多職種で連携する研修が増加し、顔の見える関係づくりと、知識の向上を図っています。

各団体、病院においては専門職ごとの研修や多職種参加の研修を行っています。

各病院、施設、事業所では、新人教育制度を導入し、知識技術の取得支援を行っています。

また、資格取得のための補助などキャリアアップのための支援を行っています。

長浜米原地域医療支援センターではホームページに「湖北地域の多職種連携研修予定」を掲載し、研修情報を共有、発信を始めました。

### 〈今後めざすところ〉

所属の体制や、人材不足から研修に参加することが困難な状況があります。

知識技術の向上のため、各機関、団体において研修に参加・派遣しやすい工夫や仕組みづくりに取り組みます。

## （２）圏域に必要な機能の充実を図ります

### ① リハビリテーション機能の強化

回復期リハビリテーション病床を整備し、脳血管疾患や大腿骨や骨盤骨折等による機能障害の回復やQOL向上のためのリハビリテーション医療を強化します。

入院患者へのリハビリ、在宅療養者へのリハビリ、介護保険サービス利用者へのリハビリ、健康維持活動におけるリハビリ等、様々な場面でのリハビリテーションの実践を広げます。

### 〈実施された取り組み〉

平成 25 年 2 月に市立長浜病院に回復期リハビリテーション病棟が整備され、脳血管疾患や大腿骨頸部や骨盤骨折等による機能障害の回復、社会復帰をめざしたリハビリテーション医療の向上が図られました。

また、市立長浜病院(平成 27 年 1 月)、長浜市立湖北病院(平成 26 年 10 月)、長浜赤十字病院(平成 26 年 10 月)に地域包括ケア病棟が整備され社会復帰や在宅療養に向けてのリハビリテーションが実践されました。

各病院・各事業所において理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の採用や増員により、より早期からのリハビリテーションが開始されるようになりました。また、訪問リハビリや、時間短縮リハビリなど、サービスの種類が増え、入院時から退院後までADLの低下を防ぎQOLの向上が図られるようになりました。

長浜市・米原市において理学療法士が採用され介護予防や在宅療養リハビリの支援が行われるようになりました。

### 〈今後めざすところ〉

多くの患者、住民が機能回復、障害の進行防止のケア、サービスを受けられるよう理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等専門職の他、様々な職種がリハビリの自立支援の視点で療養者を支援することを進めます。

また、地域の介護従事者との連携を図ります。

## ② 救急医療体制の充実

救命救急体制の確保のため、人材育成や必要な施設・設備の整備、医療機関相互の情報連携など、一次救急医療を担う休日急患診療所、二次救急医療および三次救急医療の機能充実に努めます。

### ＜実施された取り組み＞

長浜米原休日急患診療所の開設により、休日の二次救急・三次救急への軽症の受診が減少しました。

救急病院においてはICUの拡張などの施設の整備や、必要な機器の整備を行いました。

救急救命士の育成のための実習に市立長浜病院、長浜赤十字病院が協力しています。

### ＜今後めざすところ＞

救急医療の体制を安定的に確保するため、専門・専任の医師、看護師を確保するとともに、住民に正しい救急受診の理解が広がるよう啓発を進めます。

## ③ へき地医療の確保

長浜市北部や米原市の山間部等にあるへき地における医療のあり方について検討し、必要な取り組みを進めていきます。

### ＜実施された取り組み＞

市においては、へき地への医師確保が困難であることや、医療資源が不足していることなど、住民・医師・行政で意見交換や勉強会・講演会を実施するなど、へき地医療について情報共有を行いました。また、へき地医療体制を確保するため、指定管理者制度を導入し、診療体制を確保しました。

### ＜今後めざすところ＞

今後、医師の確保とともに、地域にあった持続可能な診療体制を構築します。

## ④ 医療機能の充実

圏域内の各医療機関がそれぞれの特徴や専門性を高め、その強みを発揮していくことで圏域全体の医療が高められるよう、医療の機能分化を進め、医療機関相互の連携を強化します。

また、地域のニーズを的確に捉えながら、必要な医療機能の充実に努めます。

### ＜実施された取り組み＞

医療の機能分化・連携については、各医療機関において検討とともに、圏域地域医療構想調整会議で議論が進められて、医療機関相互の連携も進んできました。

### ＜今後めざすところ＞

引き続き検討を続け、医療機関相互の連携を進めます。

#### ⑤ 病病連携、病診連携の推進

湖東圏域と連携して、圏域内の医療機関が情報ネットワークを結び、患者情報を共有することにより、よりきめ細やかな医療の提供、医療機関相互の連携強化を図ります。

##### ＜実施された取り組み＞

湖東・湖北圏域から始まった情報ネットワークシステムは全県の情報ネットワークシステム（びわ湖メディカルネット）となりました。病院、診療所は、病診連携のため、びわ湖メディカルネットを利用し患者情報の共有を推進し、病診連携の推進が図られました。病院における患者登録も進んでいます。

##### ＜今後めざすところ＞

びわ湖メディカルネットのさらなる活用も含め、病院-病院、病院-診療所の連携を進めます。

#### ⑥ 在宅療養支援ネットワークの構築

在宅療養者に対してより迅速に適切な医療福祉サービスが提供できるように、在宅医療に関わる診療所医師、訪問看護、介護事業者等が情報連携のためのネットワークを構築します。

##### ＜実施された取り組み＞

医師会のリードにより多職種で情報共有を行う「淡海あさがおネット」の構築や多職種で研修が開催されるようになり、在宅療養者の情報が連携されるようになりました。

##### ＜今後めざすところ＞

淡海あさがおネットへの登録・利用の促進とともに在宅療養に関わる医療者・介護者の顔のみえる関係づくりをさらに進めます。

#### ⑦ 在宅医療・在宅看取りへの対応体制の充実

在宅医療・在宅看取りを支援する医療機関等の充実に努めます。

在宅療養を支援するため、在宅療養に関わる医師、歯科医師、薬剤師、看護師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー等の養成・スキルアップに努めます。

在宅療養者を支援する医療福祉サービスや資源情報を一元的に管理し、情報提供できる体制を整えます。

地域医療支援センターにおいて、在宅医療を支援する医療機器貸出や、衛生材料等共同購入ができる機能を構築します。

在宅や介護施設での看取り支援のための体制づくり、環境づくりを進めます。

### ＜実施された取り組み＞

在宅療養を支援する機関（訪問診療・往診・訪問歯科診療・在宅医療支援薬局・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所など）が増加しました。

それぞれの職種ごとの研修や、多職種での研修が実施され、看取りも含む在宅医療に関するスキルアップを図りました。

長浜米原地域医療支援センターでは、在宅医療資源情報について平成 25 年に資源情報誌を発行し、平成 28 年度に内容の更新を行いました。さらに、平成 29 年度にはホームページに在宅医療・介護の資源情報を公開しました。

また、在宅医療を行っている診療所（医師）に心電計・吸引器・ネブライザー等の医療機器を貸出しました。

長浜市立湖北病院では、平成 28 年 8 月から在宅療養支援病院として、在宅訪問診療を行っている患者の急変時に対応できるようになりました。

多くの訪問看護ステーションでは、夜間休日の連絡受付など 24 時間の対応ができるようになりました。

薬局薬剤師と病院薬剤師との合同研修会を年数回開催し、入退院時の薬物治療の連携をスムーズに行うための関係づくりを進めるようになりました。

特別養護老人ホームや、介護老人保健施設での看取りの件数が増加しました。

### ＜今後めざすところ＞

在宅療養支援者の相互協力による地域単位での 24 時間支援体制を構築します。

一人暮らしの高齢者や高齢者世帯、介護者も要介護状態であるなど、在宅での看取りが困難な事例が増加し、介護老人保健施設やグループホーム等での看取りも増加していることから、それを支える介護職員への支援を進めます。

## ⑧ 介護・福祉サービスの充実

地域のニーズを的確に捉えた介護・福祉サービスの充実に努めます。

健康維持・介護予防・重度化予防を促進するサービスの充実に努めます。

### ＜実施された取り組み＞

平成 28 年度より長浜市、米原市において介護予防・日常生活支援総合事業が開始され、地域の実情に合った介護予防・生活支援サービスや一般介護予防事業を開始しました。

また、高齢者に必要な介護予防、生活支援サービスの提供体制の整備を推進するため、生活支援コーディネーターを設置しました。

米原市社会福祉協議会では地域支え合いセンターを開設しました。

様々な職種が地域に介護予防や健康についての出前講座に出向き、短期集中運動指導事業等を実施することにより、健康維持・介護予防・重症化予防が図られました。

また、地域で自主活動グループが作られ、介護予防等が促進されました。

### 〈今後めざすところ〉

引き続き、サービスを必要とする人と提供するサービスをつなげるためのニーズの把握を進めます。

介護予防・日常生活支援総合事業を開始しましたが、既存のサービスを利用する傾向があり、新サービスの利用者が少ない状況にあります。介護予防・日常生活支援総合事業について、住民への啓発を進めます。

高齢者に対する社会福祉資源は充実していますが、身体障がい者や精神障がい者に対する社会福祉資源も充実させます。

### ⑨ 認知症医療・ケアの充実

認知症の早期発見・早期治療のための医療機関連携、人材育成や環境整備に努めます。

認知症の人や介護する家族への支援の充実と技術の向上に努めます。

若年性認知症への対応について検討します。

### 〈実施された取り組み〉

平成 27 年にセフィロト病院に認知症治療病棟、認知症疾患医療センターが開設され、湖北圏域に認知症患者に対応するためのインフラ整備と専門医師が増員されました。

長浜市・米原市に認知症初期集中支援チームが設置され、認知症が疑われる人や家族を多職種が支援するようになりました。

医療機関・介護施設において、認知症認定看護師や認知症ケア専門士の資格者が増加しました。

平成 27 年度から保健所を中心に、関係者が共同して認知症患者のための医療と介護の連携ファイル「オレンジファイル」・「認知症連携シート」を作成し、圏域での医療介護連携を推進しました。

長浜市・米原市が実施する住民対象のキャラバンメイト養成講座・認知症サポーター養成講座の受講者は増加しています。

米原市内の介護事業所で行っている「ちょっと相談所」や「認知症カフェ」で認知症や介護の相談の受け付けを始めました。また、若年性認知症患者の居場所と就労の場ができました。

### 〈今後めざすところ〉

住民に対し、認知症の早期発見・早期治療および相談機関等の啓発を進めます。

早期発見にむけての取り組みは進んできましたが、引き続き対応できる人材育成を進めます。

軽度認知障害（MC I）対策について、関係者間の協議を続け取り組んでいきます。

患者の支援とともに、患者家族への支援や、介護者の集いの場がさらに各地域に増えるよう取り組みます。

## ⑩ うつ・自殺防止への対応

ゲートキーパーとしての役割を担う人材として育成に努めます。

最初に受診する機会が多い内科医等のうつ病に対する診断・治療技術を高め、必要に応じてかかりつけ医から精神科医への紹介を行うなど保健医療のネットワークを進めます。

### ＜実施された取り組み＞

長浜市では、ゲートキーパー養成により、受講者が 1700 名を超えました。企業に対し「職場でメンタルヘルス研修」を行っています。

米原市では、傾聴ボランティアの養成を行っています。

自殺企図者が再度企図しないよう、保健所が中心になって医療機関、行政機関による自殺未遂者のフォロー体制をつくりました。

### ＜今後めざすところ＞

今後は、ゲートキーパーや傾聴ボランティアなどの人材育成を広げるとともに、自殺未遂者のフォロー体制のスムーズな運用を進めます。

## ⑪ 地域の住民向け医療福祉情報の啓発の充実

地域の人々を対象に、病気の予防や応急手当、健康推進、介護予防、認知症への対応、在宅医療や在宅介護、看取り等に関する情報提供や研修等を積極的に行い、地域の健康維持の底上げや健康課題への知識普及、医療福祉への理解促進などを図ります。

また、啓発情報の共有化をはかり、イベントの連携を図っていきます。

### ＜実施された取り組み＞

様々な団体、医療機関が、健康づくり・認知症予防・生活習慣病予防・在宅医療などのテーマで住民向け研修（出前講座・広報・ケーブルテレビ）を行いました。

NPO法人や歯科医師会等の団体が開催する健康フェスティバルや湖北口腔フェスティバルの場にて、生活習慣病予防・歯科疾患・健康づくりなどの啓発を行いました。

長浜市では「むびょうたん＋1」をキャッチフレーズに健康づくりを推進しています。

米原市では健康8か条「けんこうまいばらし」をキャッチフレーズに健康づくりを推進しています。

「障がい」について理解してもらうためのフォーラムや講演会などを開催しました。

### ＜今後めざすところ＞

講座等へ参加されない人々に対する普及啓発、情報提供のあり方について検討を進めます。

講座等を効果的に行うために、啓発の実施予定に関する情報共有や関係する団体・機関の共催など連携による一体的な実施を進めます。

### (3)多職種による医療福祉の連携を図ります

#### ① 地域連携クリティカルパスの推進

現在「脳卒中パス」「大腿骨頸部骨折パス」「がん（胃・大腸・肝・乳・肺）パス」が運用されていますが、他の疾患への利用拡大など充実を図っていきます。

#### ② 「医療と介護の連携についての手引き」による医療福祉連携の推進

ケアマネジメントにおける医療福祉連携のために湖北圏域で利用されている「医療と介護の連携についての手引き」の活用による多職種のサービスの連携を進めます。

#### <実施された取り組み>

病院、診療所、福祉施設、ケアマネジャーなどの関係者、関係機関の間で「脳卒中パス」「大腿骨頸部骨折パス」「がんパス」の利用が定着しました。

胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、肺がんに加え、平成 25 年度から「前立腺がんパス」の運用が、また、平成 26 年度からは「緩和ケアパス」の運用が始まり連携が充実しました。

一部の医療機関では「慢性腎臓病パス」を始めました。

介護予防・日常生活支援総合事業に対応できるよう「医療と介護の連携についての手引き」を平成 28 年度に改訂（第 4 版）し、多職種連携に活用しました。

#### <今後めざすところ>

今後一層連携を深めるため、引き続き地域連携クリティカルパスや「医療と介護の連携についての手引き」を用いるとともに、「淡海あさがおネット」を含めた多職種間の情報共有を積極的に進めます。

#### ③ 地域包括ケアの推進

多職種が連携して保健・医療・福祉サービスが総合的、一体的に提供される「地域包括ケア」の確立に向けた取り組みを進めます

#### <実施された取り組み>

地域包括支援センターが増え、身近に相談できる場所が増えました。

地域包括ケアシステムについての研修が多数開催され、医療福祉関係者の地域包括ケアについての理解が進みました。

地域ケア個別会議やケアプラン会議を開き多職種間で連携を図りました。

#### <今後めざすところ>

個別課題から地域課題を抽出し、課題解決に向けた議論ができるような仕組みの強化を図ります。

#### ④ 地域医療支援センターによる多職種連携促進

地域医療支援センターを多職種連携の拠点として、医療福祉関係者の顔の見える関係づくりを進めます。

##### ＜実施された取り組み＞

長浜米原地域医療支援センターは在宅医療・介護のための各種研修会を実施しています。

多職種連携研究会（ながまいnet）が開催されるようになり、多職種の顔の見える関係づくりが進みました。

##### ＜今後めざすところ＞

地域包括ケアシステム構築にむけて、引き続き多職種の連携が図られるよう顔の見える関係づくりをさらに進めます。

#### ⑤ 医療と地域保健との連携推進

健診結果に基づく効果的な治療や保健指導を行い糖尿病や慢性腎臓病など心血管疾患の重症化を防ぐために、医療と地域保健の連携を促進していきます。

##### ＜実施された取り組み＞

長浜市・米原市においては、健（検）診受診者に対して、予防、重症化防止のための個別保健指導、生活習慣病改善教室等を行っています。

圏域では、「湖北地域糖尿病医療連携推進会議」により、かかりつけ医から病院への専門的検査依頼のシステム化を図るなど病診連携が進みました。また、糖尿病の療養のために必要な社会資源の一覧表を作成し、活用を促進しています。

##### ＜今後めざすところ＞

受診率と保健指導実施率を向上させ、疾病予防、重症化予防を図ります。

また、健（検）診後、精密検査、治療を要する人が確実に検査、治療を受けられるよう医療と地域保健との連携を強化します。

## 2 住民の手で医療福祉を大切に守り育てる地域をめざします

### (1) 地域の医療福祉の課題を住民も共に考えます

地域の医療福祉サービスが貴重な人材によって支えられていること、医療スタッフを守るための行動が必要であることなど地域の医療福祉課題について、地域の中で考えていきます。

#### <実施された取り組み>

長浜米原地域医療支援センターが在宅医療カフェを開催し、医療介護の現状について、住民とともに考えました。

長浜市・米原市において、医療・福祉サービス資源の情報収集を行いました。また、長浜市では山間へき地医療を考える協議会やへき地における現状と課題について、住民・医師・行政で意見交換、勉強会、講演会を実施しました。

#### <今後めざすところ>

真にサービスを必要とする人が適量のサービスを利用でき、かつ圏域住民全体が限りある医療福祉サービス資源を有効活用できるよう、住民の理解促進のため情報発信していきます。

### (2) 救急医療の適切な利用について考えます

①医療資源がかぎりあるものであること、軽症での受診やコンビニ受診が病院医師等を疲弊させることや、病院は本来入院が必要な重症患者 に対応するものであることなどについて理解し適切な救急受診が受けられるよう、啓発などの取り組みを進めます。

#### <実施された取り組み>

湖北医師会では、健康教室において、「上手な医療機関のかかり方」をテーマに医療資源の有効な利用について啓発を行いました。

湖北薬剤師会では、薬剤師による休日夜間お薬電話相談を開始し、お薬についての不安や、病院に行くべきか自宅で待機するか等の相談とアドバイスを行っています。

長浜米原地域医療支援センターは、出前講座において、コンビニ受診や救急車の適正利用について情報提供しています。

長浜市および米原市は、休日急患診療所の利用について、市広報紙、ホームページ、行政放送等を通じて啓発しています。

搬送事業者の認定制度により、緊急性のない傷病者の入退院・通院に認定車両を用いて搬送できるようにしました。

消防本部では、ホームページに救急受診に関するマニュアル等（消防庁作成）を掲載し、住民指導において救急車の適正利用をよびかけるとともに、救急搬送に該当しない

転院搬送について、民間搬送事業者または医療機関所有の救急車を利用するよう市民啓発するとともに、ガイドラインを制定しました。

#### 〈今後めざすところ〉

長浜米原休日急患診療所の稼働後は、年々休日急患診療所の受診者の割合が増加しているものの、内科については3割が休日急患診療所を受診し、7割が救急病院を受診している現状から、内科の休日急患診療所利用について啓発を行います。

救急搬送に伴う軽症の比率を減少させるための、119番通報時コールトリアージが有効と考えられ、判断基準を担保するシステムを構築します。

② 急な病気やケガの応急処置についての受講の機会を増やします。

また、小児救急相談「#8000番」など、困ったときに役立つ医療情報の啓発に努め利用を推進します。

#### 〈実施された取り組み〉

消防本部では、救急講習に短時間コースや分割コース（救命入門コース、実技救命講習）を設け、救命講習の受講を促しました。

市においては、小児救急相談「#8000」や救急急患診療所について、チラシを全戸配布し、利用促進を行いました。

#### 〈今後めざすところ〉

急な病気やケガの応急処置について、引き続き成人へ啓発するとともに、子どもたちから基本的な知識を持てるよう学校教育や生涯教育と連携した啓発の仕組みづくりを進めます。

### (3)「かかりつけ医をもつ」ことを推進します

住民一人ひとりが自分の健康状態や病気の内容を把握してもらえる「かかりつけ医をもつ」ことの重要性について啓発します。

#### 〈実施された取り組み〉

長浜米原地域医療支援センター、湖北医師会、市において、「かかりつけ医・（かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局）をもちましょう」のチラシを作成し、かかりつけ医の重要性について啓発しています。

#### 〈今後めざすところ〉

「かかりつけ医をもつ」ことの重要性について今後も継続した啓発を行います。

### 3 地域の一人ひとりが健康に心がけ、地域の支え合いを力強くします

#### (1) 栄養、運動、休養、健診受診等の健康推進活動を推進します

- ① 健康の維持・増進のため、日常的によりよい食習慣、運動の継続、適切な休養などに取り組むこと、また、口腔ケア、食育などの重要性を啓発し、その機会の提供に努めます。
- ② 健康診断（住民健診、職場健診、歯科検診等）の定期受診について啓発します。
- ③ アルコールや喫煙の健康影響についての正しい知識を啓発します。

#### ＜実施された取り組み＞

長浜市では「むびょうたん+1」に米原市では「けんこうまいばらし」をキャッチフレーズに重点的に取り組む健康課題の解決の取り組みを進めています。（出前講座・広報紙・健康栄養相談・血圧計の貸出し・健康ウォーク事業等）

長浜市・米原市では、各種団体、学校などに健康に関する出前講座を実施するほか、健康診断の案内や日程表を各戸配布し、また広報・ホームページ等により受診の啓発を実施しています。

また、長浜市・米原市では、禁煙についての講演会の開催、啓発を実施し、母子手帳の発行時、健康診断の結果返送時や、特定保健指導時に禁煙・受動喫煙防止指導を実施しています。健康推進員は市と連携し、みそ汁塩分濃度測定活動などを通じて生活習慣病予防、食育に関する活動を実施しました。自ら健診を受けることと、健康診断の重要性について住民に啓発を行っています。

医療機関でも、外来において健康診断を受診するよう啓発に努めています。

商工会では、受診率の低い、小規模な会社や個人事業所の従業員向けに健康診断事業を実施し、受診の機会を設けました。

湖北薬剤師会は、小学校・中学校において、たばこ、アルコール、薬物乱用防止教室を開催しています。また、街角・企業などにおいて禁煙啓発活動を行っています。

#### ＜今後めざすところ＞

健康診断の定期受診や禁煙、アルコールや喫煙の健康影響、健康維持・増進について、今後も啓発活動を進めます。

## (2)「共助」の意識を高める活動を推進します

- ① 住民相互の交流、世代を越えた交流が活発になるよう地域活動の取り組みを推進します。
- ② 高齢者や障がい者等支援が必要な人を地域で支えていける意識の醸成に努めます。
- ③ 社会福祉協議会の地域福祉事業等、社会活動への地域の人々の積極参加を促します。
- ④ 民生委員や健康推進員などの活動に地域全体で応援・協力します。

### 〈実施された取り組み〉

民生委員・児童委員やボランティアなどの地域住民が協力し合って、地域サロン・転倒予防教室など高齢者の居場所が設けられ、各市において地域で支え合う互助の仕組みづくりを進めています。また、自治会行事（地域交流）や、世代間交流行事などが実施されています。

地区民生委員児童委員協議会は、住民に呼びかけ、災害時避難体制の構築に協力しました。

社会福祉協議会では、地域活動への助成やレクレーション物品の貸出し、アトラクションボランティアの調整など、活動を支援しています。また、地域福祉コーディネーターを配置することで、民生委員・児童委員などの地域福祉活動団体の支援をしています。

成年後見・権利擁護センターでは、地域住民や事業所に対し制度の周知を実施しました。

米原市では、認知症キャラバンメイト養成講座、キャラバンメイトによるサポーター養成講座において、地域での話し合いを行いました。

また、長浜市社会福祉協議会では、しょうがいサポーター養成講座・難病支援者養成講座、手話講座を開催し、障がいについての理解を深め支援者の養成を実施しました。

健康推進員は、地元スポーツクラブと連携し、イベント会場でバランスのとれた食事と呼びかけるなどの活動を実施しました。

### 〈今後めざすところ〉

住民主体の地域活動に、幅広い年代・団体が参加し、地域全体でその活動を支えるよう意識を醸成します。

高齢者、障がい者を地域で支える活動に、民生委員・児童委員、地域のボランティア、生活支援コーディネーターとともに、地域住民の参加を進めます。

### **(3)高齢者の居場所づくり、生きがいを支援します**

① 高齢者が尊敬され、生き甲斐をもって生活できる地域にするため、高齢者の居場所づくり、生きがいを支援する取り組みを進めます。

#### **<実施された取り組み>**

様々な地域で、サロン・転倒予防教室等住民主体の通いの場、居場所づくり、生きがいが進んでいます。各市・各社会福祉協議会は居場所づくり等の運営支援を行いました。

社会福祉協議会が、介護予防や健康づくりに関する具体的なプログラムの提案や運営者支援の研修会を開催しました。

#### **<今後めざすところ>**

身近な場所での住民主体の活動の広がりと継続を図ります。

② 老人クラブやシルバー人材センターの活動、高齢者等のグループの自主活動に対して、活動の連携など地域全体で支援します。

#### **<実施された取り組み>**

米原市においては、地域支え合いセンターを開設し、地域課題に取り組む人材や組織の育成、解決に必要な取り組みの開発を進めました。また、支え合い活動の核となる生活支援コーディネーターを配置しました。

シルバー人材センターの活動促進の一助となるよう介護予防・日常生活支援総合事業の生活支援型訪問サービス事業者（緩和型サービス）としてシルバー人材センターを指定しました。また、転倒予防自主グループに対し専門職を派遣し、活動を支援しました。あわせて、老人クラブ、シルバー人材センターに市から補助金を交付し、高齢者の雇用や社会貢献活動の支援をしています。

民生委員・児童委員は、老人クラブとともに地域の高齢者の支援を行っています。

#### **<今後めざすところ>**

高齢化が進む中、老人クラブの活動は、地域での交流、生きがいの場として重要であるため、継続的、発展的な活動を支援します。

シルバー人材センターの更なる活用（子育て部門、介護事業等）と専門職派遣などにより支援を進めます。

高齢者による活動を地域全体で支援するためには、住民の温かな理解が必要なため、あらゆる機会に意識啓発を行います。

#### (4)見守り、配食、買い物支援等のボランティアを育てます

- ① 地域のボランティア活動の紹介や支援を推進します。
- ② 社会福祉協議会のボランティア支援事業などで、見守りや配食サービス、買い物支援等のボランティアの発掘や人材の育成を推進します。

##### <実施された取り組み>

米原市では、地域課題に取り組む人材や組織の育成、解決に必要な取り組みの開発を行い、多様な主体が参加する広域的な支え合いの仕組みづくりを目指して、地域支え合いセンターを開設しました。

長浜市社会福祉協議会では、ボランティアコーディネーターを配置し、ボランティアに関する総合窓口として活動者のニーズに応じたボランティア活動の紹介を実施し、ボランティア活動を推進しています。また、ボランティア養成講座を開催し、活動に関心を持ってもらうとともに、新たな担い手を育成しています。

社会福祉協議会が中心となって、各地域で、配食、買い物支援、見守り、除雪等のボランティア活動のほか、特に災害時の支援体制の構築の取り組みも進めています。

##### <今後めざすところ>

活動しているボランティア団体の支援を継続し、その活動を紹介することにより、ボランティア活動への参加を進めます。

高齢者世帯、障がい者世帯等が抱える福祉サービスで賄えない生活課題・ニーズについて、住民相互のたすけあい・支え合い活動を展開します。

今後ますますニーズの増加が予想される買物支援について、新たな支援の形を検討します。

#### (5)在宅療養・在宅看取りについて理解を深めます

- ① 在宅療養者とその介護者を地域ぐるみで支援していきます。
- ② 在宅療養や在宅看取りについての理解を深めるために、地域での啓発や学習の機会を増やすとともに、自宅で介護することや延命治療のこと、人生の最期の過ごし方などについて家族や親しい人たちと話し合います。

##### <実施された取り組み>

民生委員・児童委員協議会では、研修会等により、在宅療養についての理解を深め、在宅療養者・介護家族の相談に応じ、行政機関等関係機関へ連絡調整を行っています。

社会福祉協議会では、介護者同士の交流や情報交換の場を提供し、介護者の孤立防止や、学習会を通じて介護の知識の向上を図っています。

市と地域医療支援センターは、出前講座で、「エンディングノート」を使用し、人生の最期をどのように迎えたいか考える講座を開催しています。また、在宅医療カフェを開催し、在宅療養、在宅看取りについて考える機会を設けています。

### ＜今後めざすところ＞

在宅療養、在宅看取りについて医療福祉関係者だけでなく、住民が理解を深め、地域ぐるみで在宅療養者に支援を進めるため、住民向けの啓発や学習の事前告知の方法、住民にとって魅力ある内容の工夫など、効果的な開催方法を検討します。

### (6) 認知症の早期発見・早期治療を推進し、患者・家族を支援します

①啓発の充実などにより認知症に対する理解を深め、早期発見・早期治療の重要性と患者や家族を地域で支援することについて地域で考えていきます。

#### ＜実施された取り組み＞

長浜市・米原市において、認知症キャラバンメイト養成講座や、認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座が実施され、住民に認知症についての理解を深める啓発を行いました。また、小中学校、各種団体、企業において認知症に関する学習や学習の提案を行いました。

長浜市では、「認知症の人とその家族を支える市民のつどい」を開催し、市民が認知症への理解を深める気運を高めました。

長浜市・米原市、医療機関、各団体が自治会、老人会等に認知症についての出前講座を行いました。

### ＜今後めざすところ＞

キャラバンメイト活動や講演会等により、認知症に対する理解は進んできました。今後は、個人単位の支援から、地域ぐるみで支援します。

② 認知症になっても患者・家族が安心して生活できる地域を目指します。

#### ＜実施された取り組み＞

警察とともに長浜市は認知症高齢者等SOSほんわかネットワーク事業、米原市は認知症高齢者等SOSネットワーク事業を開始し、認知症患者等の行方不明者の早期発見捜索のための患者事前登録や行方不明発生時のメール配信協力者登録等を実施しました。

「いぶきの会」では、認知症患者を介護する家族が安心して介護できるようサポートするため、家族交流会を開催しています。家族だけでなく、様々な方が相談できるようカフェも開催しています。

### ＜今後めざすところ＞

今後、自動車の運転ができない高齢者が増加することが想定され、買い物支援のサービス等生活を支える対策を進めます。

長浜市社会福祉協議会による「命のバトン配布事業」、米原市による「絆バトン事業」や要援護者のリストを活用した取組のほか、周りの住民が徘徊する高齢者に声を掛ける

など住民自身による見守りの地域づくりについて自治会を中心とした積極的な取り組みを進めます。

#### **(7) 自殺防止の取り組みを推進します**

- ① 心の健康問題の重要性、心の不調に気づいたら専門家に相談したり、精神科を受診することが重要であることを啓発します。
- ② 自殺を考えている人のサインに早く気づき、精神科医等につなぎ、見守っていけるよう、うつ・自殺防止についての理解を深めていきます。

#### **<実施された取り組み>**

米原市では、こころの健康づくり講演会を開催し、長浜市では企業等への出前講座を行うことにより、こころの病気についての理解等の啓発を実施しました。また、働き盛り世代への啓発のため、企業向けメンタルヘルス研修を実施しています。

社会福祉協議会では、不登校者、ひきこもり者等の交流支援として当事者の居場所づくりに取り組みました。

#### **<今後めざすところ>**

引き続き、企業向けメンタルヘルス研修など若い世代への啓発します。

あわせて、一般市民への啓発も積極的に行っていきます。

自殺予防のために自殺未遂者支援を進めます。